

新たな価値を創造していく力

校長 中尾 善 登

平成30年も残りわずかとなりました。そして、来年元号が改まることから、何かにつけ「平成最後の・・・」といった言葉を頻繁に耳にします。さて、学校では2学期が終わろうとしています。2学期は、猛烈な猛暑の中始まりましたが、若桜学園では、夏休み中にエアコン工事が終わり、快適な環境で学習に取り組めました。そして2学期早々の運動会、11月には学習発表会といった大きな行事がありました。また、陸上大会、新人戦、駅伝といった対外行事に子どもたちの活躍、成長を見ることができました。文化的な面でも、様々な場面で活躍した吹奏楽部、俳句部門で鳥取文芸の学校賞受賞など目を見張るものがありました。

最近では、先の時代を読みにくく、今の子供たちが大人になったころの社会がどんな社会になっているのか予想を立てることは難しいことだと思っています。しかし、今言われていることは、AI（人工知能）が進化し、今の職種がかなりの割合でなくなる一方、日本は労働力不足に見舞われ、外国人雇用が進むとも言われています。そのような情勢の中、大学入試改革が進み、大学教育も大きく変わっていくようです。文部科学省の資料によると、「これからの大学教育の質については、社会で求められる人材が高度化・多様化する中で、教養・知識等に加え、課題発見・探求のための批判的思考力や判断力、チームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担い得る倫理的・社会的能力などを育成すること」が求められています。言わば「新たな価値を創造する力」とでも言えるかと思います。そして、これらは大学のみならず日本の教育、小・中・高すべての教育の目指す方向性であることに間違いありません。また、このような方向性は、都市部だけに限らず、地方においても当然求められ、このような資質・能力を持ち合わせた人材育成が、地方社会にとっても大切なのです。

したがって、若桜学園では、若桜のよいところを知り「若桜で生きる」よさを学習する地域学習から、学年が進むにつれ「若桜を生かす」ための地域学習へとシフトしていくことを目指していかなくてはならないのです。若桜学園の教職員は、身近な事柄を細かく見る「虫の眼」とも言える視点で、子どもたちを取り巻く人間関係トラブルや部活動の少人数化問題など喫緊の課題にあたる一方で、大所高所に立った「鳥の眼」としての視点で、上述したような「新たな価値を創造していく力」を若桜の子供たちに身に付けさせることが本当に大事だという意味を明確に持ち、今後も若桜学園の教育に邁進して参ります。この紙面上で、学校を上げて取り組んでいる育てるべき資質・能力「若桜学園 10 の力」を紹介します。

若桜学園 10 の力

学 び を 求 め る 子	内発的動機、自己管理能力、自己有用感
自 分 を 高 め る 子	持続的探究、問題解決力、批判的思考
人・もの・こととつながる子	社会的責任、合意形成力、多様性受容
情報活用力	

（低学年児童には、わかりやすい言葉に置き換えて提示しています。）

子どもたちは新しい年に向けて、あるいは3学期に向けて、それぞれが新たに目標を決めていることと思います。ご家族ともそのような話題に触れていただき、若桜の未来、若桜への思いも語り合いながら、若桜で育った自分の将来像を膨らませることができたらと思います。なぜならそのことが、学校教育目標の「若桜を愛する心」につながるからです。

平成から新たな時代へ、若桜学園の子供たちの輝かしい未来が切り拓かれていくことを願ってやみません。

皆様、どうかよいお年をお迎えください。今後ともよろしくお願いいたします。